

公民連携で水道水源保全

岡崎市 上下水道局 中部地方初、12者と協定



協定締結式に参加した内田市長（前列右から3人目）と各者代表者

岡崎市上下水道局は、安全・安心な水道水を未来にわたって安定して市民に供給し続けるため、同市の主要水源である乙川の主流域における水源林の保全などに公民が連携して取り組む「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」を展開する。公民連携による水道水源の保全事業は中部地方初の取り組みだという。9月28日には、岡崎市役所で同市水道事業に関連する12の企業・団体との「岡崎市の水道水源の保全に向けた事業連携に関する協定」の締結式を開催、内

田康宏・岡崎市長と各者の代表者が協定書に署名した。協定を締結したのは、▽岡崎市管工事業協同組合▽エステム▽クボタ▽小林設計事務所▽日水コン▽コスモ工機▽大成機工▽玉野総合コンサルタント▽第一環境▽名古屋バルブ工業▽日本水工設計▽日本铸铁管—の12者。

プロジェクトでは、12者が寄附金などにより活動資金を負担し、協定参加者が相互に連携して、市民参加による間伐や下草刈りなど水源林の育成・管理に関する活動を実施するとともに、市民らに水源林の大切さを伝える啓発活動にも取り組むこととしている。啓発の一環として、水源地の特性を生かしたトレッキングなどへのアクティビティ要素も取り入れ、楽しみながら水源林について知ることができるよう企画も検討している。

プロジェクトでの活動を通じ、CSR活動の展開による人材育成や企業価値の向上、他企業との連携による新たな機会の創出などが期待できるとしている。来年度の本格始動に向け、今年度は計画の詳細検討を進めていく。協定期間は3年間。

乙川は、岡崎市の主要浄水場である男川浄水場の水源で、流域はすべて市内に位置しており、これまで森林の保全は経済

振興部森林課が行ってきたが、上下水道局としても水道水源の保全という観点から今回の事業を行うこととした。

協定締結式で内田市長は「水源の保全に努めることは、大切な水を未来にわたって、安定して市民の皆さまに届け続けることにつながる重要なもの。皆さまと共に作り上げることで、より良い活動が展開できると確信している」と語った。

参加企業・団体を代表してあいさつしたクボタの黒澤利彦・取締役専務執行役員水環境事業本部長は、「それぞれの技術・知見・ノウハウなどを活かし、特に未来を支える子どもたちに水資源の大切さを伝えるべく活動したい」、第一環境の岡地雄一・代表取締役社長は「水道水源林の保全こそが、水道の安全・安心・安定の原点とも言える。今回の活動を契機に、当社の従業員とその家族、そして多くの市民に水源保全の大切さを伝えたい」と意気込みを述べた。